

周東系統によるハワイ伝道開始

1929年にハワイ最初のホノルル教会を設立した上野作次郎夫妻を初めとする本島系統の布教師たちは、前号でみたように活発な布教活動を行った。すでに移住していた教信者たちはこの様子に刺激を受け、にをいがけ・おたすけに励むようになった人たちもいた。その中には、ホノルルのディリーメン・ミルク会社に勤めるかたわら、1923年に布教所を開設し、親類や友人などへにをいがけを行っていた三国又五郎(周東)もいた。三国は山口県玖珂村で太郎田家の次男として出生し、のちに結婚して広島県の三国家へ入籍した。兄の初蔵が周東支教会の2代会長をつとめている頃の1908年に又五郎は教会財政の支援をするためにハワイへ渡航した。

上野らの活動に刺激を受けた三国は、上級の名東中教会(現大教会)に布教師派遣を依頼し、布教活動のさらなる活発化を図った。その要請を受け、柏原義則(後の名東大教会2代会長)、弘長義誠(後の周東大教会5代会長)が1930年8月にホノルルへ上陸した。そして翌1931年2月には三国を会長として太平洋教会が設立され、現在本島大教会に次いで多くの教会を設立している周東大教会のハワイ伝道の基礎となった。

柏原、弘長の両氏は、到着後三国宅にマカレー布教所の看板を出し、三国と共に布教を開始した。当初、仏教各派の別院や神社へ挨拶に訪れ、現地での各派の様子を調査している。仏教は開教からすでに数十年が経っており、日本語学校を設立して子弟教育を行うなど活発な活動を行っていた。また神社も多く設立されていた。その様子は宗教博覧会と評され、ホノルルに日本宗教の中でないものはないと言われるほどで、各教団から派遣された布教師たちがしのぎを削っていた。なかでも本願寺は一大勢力を誇り、ハワイ諸島の隅々までその活動が展開されていたため、プランテーションなど広さの限られた地域では天理教の布教活動を行うことが難しかった。そこで三国たちは主にホノルル市の日本人が密集している地区で活動することになった。

当時、すでに多くの日本人がハワイに在住し、各地で県人会が設立されていた。なかには町人会や村人会などもつくられ、出身地に基づいたネットワークが構築されていた。三国は広島出身、弘長は山口出身であったことから、まずその地縁の繋がりを通じての布教活動が展開された。柏原は徳島県出身であったが、広島や山口への巡教も多くそれぞれの地域の事情にも詳しくあったことから、両県の人々とも話を合わせやすかった。柏原は約1年間におよぶハワイでの布教活動のちアメリカ本土にも渡っているが、その際にハワイ在住の徳島県人から紹介状を多数もらっていたため、大陸横断の際に多くの人々から世話を受け、また講演なども行っている。ハワイそしてアメリカ本土における当時の地縁的なネットワークの強さがうかがわれる。

1935年にはダイヤモンド(現パラダイス)、ワイキキ、カパアの3教会が設立された。ダイヤモンド教会の初代会長となった米田ミツは夫吉太郎の病気を三国、柏原によってたすられて入信。ワイキキ教会の初代中本秀吉は山口県出身で、1913年に18歳で父の呼寄せによりカウアイ島にわたりプランテーションで就労した。のちにホノルルへ移住。妻きくよが三国又五郎の妻イツといとこであったことから布教所に参拝するようになった。柏原、弘長の導きで日本に帰国し別科へ入学。修了後教会設立の許可を得て戻った。カバア教会初代の竹本彦十も

山口県出身で、さきにハワイで就労していた叔父をたよって1907年に19歳でカウアイ島へ渡った。眼病を三国の命で布教活動をしていた布教師にたすけられて入信した。さらに1938年にアロハ教会が設立されたが、初代会長の川崎みゆきは広島出身で16歳の時に両親の呼寄せでハワイに渡り、のちにホノルルで大工をしていた川崎諒策と結婚。諒策も広島出身で1907年に17歳で知人もない中単身でハワイに渡っていた。みゆきは喘息をたすけられて入信している。このように広島、山口などの地縁、また家族や親族といった血縁のつながりによって布教活動が展開していったことがうかがわれる。

当初の布教活動のもう一つの特徴は新聞社を通じての宣教であった。柏原と弘長は到着早々に現地邦字新聞社を訪れ、天理教布教師到着の記事を依頼した。若い記者たちと懇意になり交遊を深める中で、ハワイの日本人たちに天理教をより良く理解してもらうことを目的として、柏原は『日布時事』に「おみぎばあさんの哲学」と題して8回にわたり天理教紹介文を執筆している。「宗教の主たる関心は心霊の開発にあると思う。即ち霊的であって肉的不是ではないはずである。ところが肉の問題である病苦を機縁として神の働きを認識し、信念に生きる一つの教団がある。」との書き出しで始まり、元初まりの話、かしまの・かりものの教理、八つのほこりの説き分け、教祖のひながた、救済の方法などについて述べた後、教会本部について言及し「ユートピアンが夢想しておったような国が出現しておる。大祭典には何十万の人が集まる。純真なる人の集まりで理想の社会、真の人間味、信仰味はここだという尊い感触を与えられる。日本を訪れる人は、高野山の神秘、本願寺の偉観とともに天理教本部の信仰的感触を味わって頂きたい。」と結んでいる。柏原は、反響のいかんは定かではないが、天理教全般の説明をしたこと、天理教布教師のハワイでの存在の宣伝、そしてホノルルの知識人たちと知り合いになったことは一つの収穫であったとし、当時の様子を戦後1970年にハワイのラジオ局でのインタビューで以下のように述べている。

本教の上に新聞が非常に力になってくれました。悪口いわずにね。お蔭で天理教の布教の最初は非常に好意的でした、よその宗教も本願寺さんにしても。新聞社にしても、私が喋ったり書いた事をどんどん記事にしてくれたので、私もよう文章を書いたですね。だから説教以外に文筆、文書伝道にも忙しい日々でした。日布時事さんはキリスト教の人ですけど非常に好意的でした。宗教は自由ですからねハワイ、アメリカは。よその宗教を弾圧したりするのがないのでやりやすかったですね。(柏原義則 1988年、821～822頁)

太平洋教会設立の奉告祭は1931年4月に行われたが、参拝者は200名を超え、日本語学校長など地元の日本人社会の名士も列席した。その様子は邦字新聞でも大きく取り上げられた。こうして地道なにをいがけ・おたすけ、そして新聞を通じての宣教などの布教活動が実を結び、周東系統の教勢は伸展していった。

参考文献

「ハワイに於ける周東の道 太平洋教会」『まこと』天理教ハワイ伝道庁、1996年5月号、16～21頁。
柏原義則『渡海越山』天理教名東大教会、1980年。
柏原義則『渡海越山一拾遺集』天理教名東大教会、1988年。